

「印旛沼クリーン大作戦」 ～印旛沼流域の治水リスク軽減をめざして～

平成29年8月10日～12日の3日間、鎌ヶ谷市や船橋市に端を發し八千代市と印西市の境を流れ印旛沼(新川)に注ぐ神崎川(かんだきがわ)で特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」の駆除を行う「印旛沼クリーン大作戦」が開催されました。

この「大作戦」は、NPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)が主催し、印旛沼流域水循環健全化会議の共催により、今回が2年目の開催となりました。全国から集結したIVUSAメンバーの大学生約100名を中心に健全化会議メンバーの他、地元の方々も多く参加し、3日間に亘って神崎川(印西市武西地区)で駆除作業を行い、千葉用水総合管理所からも職員11名とボート1艇が参加しました。

作業前打ち合わせ ▶



「ナガエツルノゲイトウ」は、印旛沼に流入する河川等で大きく成長し、大雨の時に印旛沼の水位を下げるためにポンプ運転中の大和田機場に群落のまま漂着し、排水障害が発生しています。また、排水障害だけでなく、水田に入り込み稲作りにも支障を来しています。これらは印旛沼周辺地域にとって深刻なリスクとなっており、これらのリスク軽減のため、全国から集まってくれた大学生たちがボランティア活動として、泥だらけ、汗だくとなって奮闘し、多くの群落を駆除し、事故等もなく無事に終了しました。



ボートでの回収作業と
河岸での引き上げ作業風景



引き揚げ作業



運搬作業



シート上に一時集積

しかし、この外来植物は今回の駆除活動だけで根絶することは不可能なため、将来にわたって継続的な駆除が必要です。これらの駆除活動を継続していくためには、印旛沼周辺地域の方々から自らのリスクとして理解を深めて頂き、地域活動として取り組むことが重要と考えています。IVUSAが目指す目的のひとつ「地域の方々から地域の課題として気づくきっかけ作り」でもあります。最終年となる来年のクリーン大作戦には、周辺地域から更に多くの方々から参加して頂けるよう、当管理所としてもPR活動を行っていきます。



駆除前の群落



駆除後



反省会の様子